

式辞

桜は他の植物と違って、葉が茂る前に花を咲かせる、不思議な花です。

その語源は、春の里にやってくる「稲」の神（「さ」の神）が座る場所（くら）」であるという説があります。

校門前の神の宿る桜の木々も天山^{おろし} 嵐の北風に
耐え抜き、随分その膨らみを増してきました。い
よいよ神の力がこの学校にも漲り始め、九年生の
卒業を祝福してくれています。



本来ならば、コミュニティスクールとして、地
域からたくさんの方々をお招きしながら可能な限
りの在校生を一堂に集め、賑々しくこの式典を挙
行すべきところですが、今なお続く新型コロナの感染状況に鑑み、昨年に引き続き、予防
対策を講じた卒業式を行うこととしました。

そのような中、本日は多久市教育委員会教育委員 ^{みね} 峯 ^{すすむ} 晋 様、^{たろううら} 太郎浦 ^{まさえ} 雅枝 様をは
じめ、学校運営に関わっていただいている方々の御臨席と、多くの保護者の皆様の御参列
を得て、ここに小中一貫教育校として第9回目、義務教育学校として第5回目の卒業証書
授与式を挙行できますことを心から感謝申し上げます。

さて、92名の9年生の皆さん、卒業おめでとう。皆さんは、義務教育課程9年間で修
了し、この東原庁舎中央校での学びに、本日終止符を打つことになります。



皆さんが本校に入学した平成二十五年、本校
は、市内三つの小学校と一つの中学校が手を携
え、小中一貫校として開校しました。

その後、小・中のつながりを一層強化した義務
教育学校という新しい制度を導入し、現在、全国
でも百数十校しかない、先導的な教育システム
を擁する学校として教育活動を進めています。

地域の方々に温かく見守られながら、年齢的
に幅のある先輩や後輩たちと広く交流し、専門性を備えた様々な先生方に早い段階から薫
陶を受けた、その出会いと切磋琢磨の日々は、他校では経験のできない貴重な日々であっ

たことを保証します。

そして何より皆さんは、小中一貫教育九年間のサイクルが完成する特別な学年です。そのことに心から敬意を表します。

その完成年度の一期生として、一時間一時間の授業、一つ一つの学校行事は、全員で作上げた貴重な教育実践であり、本校の新しい伝統として積み重ねられてきました。

特に、コロナ禍にあった高学年ブロックのこの2年間、もっとも多感な青春時代は、たくさんの制約が皆さんの自由を奪い、時に息苦しく感じることもあったのではないのでしょうか。

特に私が申し訳なく思うのは、延期と変更を重ねた修学旅行です。私の判断が結果的に皆さんに対して窮屈な思いをさせてしまったことは、後悔してもしきれません。

それでも旅行に行けたこと自体を純粋に楽しんでくれた皆さんの姿に私は心から安堵し、うれしく思いました。

また、体育大会や文化発表会もコロナの影響を強く受けました。しかし、皆さんは常に前向きに、新しい形の学校行事や自己表現の場を創り上げ、観る者に無限の可能性を感じさせてくれました。



この他にも、中体連や生徒会活動など、皆さんの最上級学年として活躍は下級生たちに大きな刺激と励みを与えてくれました。

これまでの皆さん一人一人の誠実でひたむきな姿に、心から感謝をします。ありがとう、感動しました。

これから皆さんは、本校を卒業して新しい一歩を踏み出すこととなります。新しいステージでは、ここで学んだこと以上に、いろいろなことを学び、新しいものや新しい考え方を作っていく場面にたくさん出会うだろうと思います。

そのはなむけに、「正解を探す」ということから「問題を探す」ということへの転換が必要だということをお伝えたいと思います。



このことを「ジクソーパズル」と「レゴブロック」にたとえてみます。「ジクソーパズル」は、決められた枠の中に、できるだけスピーディにピースをはめ込んで完成させるゲームです。



このパズルのように、これまでの社会は、自分が持っているピースとしての知識をいかに素早く適切に使って、定められた「正解」というゴールに到達するかが問われていました。

ピースすなわち「知識」が多ければ多いほど、大きくて複雑な絵ができます。それがこれまで求められてきた力です。

しかし、これからは、そういう時代ではありません。

新型コロナウイルス、SDGs、世界の各地で勃発する戦争や紛争など教科書に載っていない状況に直面し、計画どおりいかなかったり、そもそも何が正解なのか分からなかったりする時代です。

そうした状況下では、私たちは価値観の異なる他者と協働しながら「正解」ではなく「最適解」を作り上げていかねばなりません。

すなわち、自らの力で新しい「問い」を見出し、みんなが持っている「力（ブロック）」を組み合わせ、新しい価値観（最適解）を作り出していくことが求められているのです。

それが「正解を探す」ということから「問題を探す」ということへ転換するという意味です。「正解」を求める、教えてもらうのではなく、今何が問題なのか、なぜそれが問題なのかを自分の目でよく観察し自分の頭でしっかり考える人間になってください。

私が言いたいことはそれだけです。

さて、いよいよ、別れの時が近づいてきました。

しんざんだいたくりょうだ しょう

「深山大沢 龍蛇を生ず」。折に触れて皆さんに紹介してきました。少しは耳に馴染ませてくれたでしょうか。

ふところ

「自然の 懐 深いこの学び舎から、高い志を持つ「龍」のような立派な人物が巣立っていく」という意味です。

今、まさに、「龍」となって天空に舞い上がっていかうとする姿を今日の皆さんに重ね合わせる時、私は胸が高鳴ります。

四月からは、それぞれの場所で、それぞれの新しい挑戦が始まります。どうぞ、この9年間を誇りに高い志をもって自分の足で前に進んでください。



最後になりましたが、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。在校生、職員一同、心からお祝いを申し上げます。保護者の皆様には、これまで物心両面にわたり御理解と御協力を賜り、誠にありがとうございました。皆様方の御支援なくしては本校の教育活動を進めることはできませんでした。この場を借りて衷心から御礼申し上げます。また、今後、お子様のますますのご活躍を心から応援し、祈念しております。

では、卒業生の皆さん。お別れです。また会える日を楽しみにしています。それまでお元気で。

卒業おめでとう。

令和4年3月11日

多久市立東原摩舎中央校 校長 下村 昌弘

